

夏山集中山行 南アルプス



■南アルプスの女王に登る 仙丈ヶ岳

- 山 行 日：8月20日(土)～22日(月)
- 参 加 者：SL澤田(律) SL荘所 兼本 田中(良) 橋本(万) 福原 松浦
L 砂川(延) 乙坂 島谷 谷口 橋本(健) 平石 藤田 吉村
- 行 動 記 録：
 - (20日) 山電高砂駅北ロータリー6:55 発ーJR加古川駅北ロータリー(7:15 着)7:20 発ー三木小野IC(7:45 着)ー駒ヶ根SA(12:50 着)13:00 発ー伊那IC(13:15 着)ー仙流荘(13:50 着)14:10 発ー北沢峠(大平山荘・14:55 着)
 - (21日) 大平山荘 4:55 発ー藪沢小屋出合(7:50 着)ー馬ノ背ヒュッテ(8:20 着)8:50 発ー仙丈小屋(10:05 着)10:20 発ー仙丈ヶ岳(10:55 着)11:15 発ー小仙丈ヶ岳(12:25 着)12:45 発ー藪沢大滝ノ頭(13:50 着)ー北沢峠(15:35 着)15:55 発ー仙流荘(16:40 着)
 - (22日) 各コース共、同道
仙流荘 9:00 発ー駒ヶ根SA(10:45 着)11:00 発ー恵那SA(11:50 着)12:45 発ー播磨中央公園(16:30 着)16:40 発ーJR姫路駅南ロータリー(17:25 着)17:35 発ーJR加古川駅北ロータリー(18:10 着)18:20 発ー山電高砂駅北ロータリー(18:45 着)

◆◆南アルプスの女王仙丈ヶ岳に挑戦

松浦

8月20日土曜日、山電高砂駅・JR加古川駅前出発の皆と観光バスを、長野県伊那市の仙流荘から林間バスに乗り換えると、段々と雨が降り出し、大平山荘到着時は小雨だったが、夕食時には本降りになり、翌日の天気もこのまま雨模様になりそうでした。

8月21日日曜日は、意外にも月と星がとても綺麗に見えていて、大平山荘からは遠く北アルプスの山々が見える中での登山開始となりました。

登りの途中、馬の背ヒュッテの水場でお水をいただき、お弁当を食べた時は遠くの景色まで楽しめました。暫くすると霧が出てきて仙丈小屋から頂上は見えにくい感じでした。

頂上では霧が風に乗って移動し奥の山が見えたり隠れたり、山の天気は変わり易いと言いますがその通りでした。

仙丈ヶ岳山頂で記念写真を撮影し、再び出発、小仙丈ヶ岳にも登りました。

途中から足先が痛くなってしまい靴紐を締め直しましたが、靴擦れが両足に出来ていたようで辛かったのですが、何とか車道に出ることができ、北沢峠から仙流荘行きの林間バスに乗れました。

8月22日月曜日は台風が近づいているようでしたが、仙流荘に宿泊し翌朝同室の皆さんとお散歩していると、鋸岳や月が綺麗に見えました。特に台風の雨風に遭うこともなく、夕方西日が眩しい中帰宅となりました。

仙丈ヶ岳の登山道脇には沢山の花が咲いていました。可愛らしい花が咲いているとか、美しい景色が見えているとか、お知らせをいただきました為、足元にばかり気を取られ、周りの景色を楽しむ余裕は無いかもと思っておりましたが、お蔭様で沢山の珍しい高山植物や残雪、北岳、甲斐駒ヶ岳、中央アルプス等の美しい景色を楽しむ事ができました。

南アルプスの女王と言われる、仙丈ヶ岳3033mに挑戦しとても良い経験が出来ました。無事に帰ってこられたのは皆様方のご協力が有ったからです。ご一緒させていただきました。皆様には色々と大変お世話になり誠に有り難うございました。



◆◆ 15名、頑張れました！！

島谷

南アルプス林道バスは大平山荘(おおだいら山荘)のすぐ前で一時停車してくれ、私達グループと須増さんグループは翌日の再会を約束し、手を振り別れました。山荘1階には若いお兄ちゃんグループともう1グループは姫路の朝日山・京見山を拠点に活動されている山の会の方々と、「明日、どっち行ってる？」と播州弁で翌日の健闘を祈り合いました。

2階フロアは高御位山遊会貸切りで、27・28年度教室生が多いため自己紹介タイムがあり、また荘所先生のヨガ教室もありとても和やかに過ごし、そして消灯19時にはパチッと電気が切れ、山小屋と思えない快適な布団で眠りにつきました。

翌日出発5時前には、雲の切れ目のオレンジ色の空に槍ヶ岳が見えました。ゆっくり拝む間もなく、薄暗い森へ、さあ出発です。メンバーは明るく元気な人たちですが、当然、私語が減り、ひたすら歩く、登る、つかむ。くじけそうになる場面がありましたが、「大丈夫」「ゆっくり」「練習はしてきた」と言い聞かせて進みました。そんな折、尾越さんグループの元気な声・顔に会いハイタッチで励ましてもらい、さらに仙丈小屋前では上田

さんグループと会え、山で知った顔に会う安堵感にひたりました。入会1年が過ぎ話せる方々も増え、「山仲間」の仲間入りが出来つつあると感じた瞬間でした。さて、そこから仙丈ヶ岳までの30分が過酷で、一步一步がこの上なく辛かったです。頂上から鳳凰三山と北岳を教えてもらい、いつもの山行よりもゆっくりと眺めを楽しめました。下り途中に、ハイマツに走りこむ灰色の大きな獣のようなものを見たのですが、おそらくライチョウが飛び入ったのでしょう。その後の姿は確認できませんでしたが、羽を広げた大きさなら合点がいけます。

下山では、脚の具合が悪くなる人も増え、歩いてはいるけれど本当にしんどく、頭痛等高山病のような症状も数人ありました。ザックを協力して持ってくれる男衆がたくましかったです。

なだらかな下山ルートに変更し、「満身創痍で下山できた」感じでした。リーダー・サブリーダーは下山時刻を心配されたことと思いますが、気持ちでも支えていただきました。

昨年の雨の三ノ峰下山時と同様に会長が握手で迎えてくださり、最後尾の澤田さんの「皆さん頑張りましたね」のことばに、やっと安心と喜びを感じられました。辛かったです、頑張り、登りそして下り終えて満足でいっぱいです。

2

■南アルプスの雄峰に登る 甲斐駒ヶ岳

- 山 行 日：8月20日(土)～22日(月)
- 参 加 者：L須増 SL平井 田中(重) 田中(由) 中村 森本 山本(清)
- 行 動 記 録：
 - (20日) 山電高砂駅7:00発—JR加古川駅(7:15着)—三木小野IC(7:45着)—伊那IC(13:15着)～仙流荘(13:50着)14:10発～北沢峠(15:05着)～長衛小屋(15:15着)15:25発～仙水小屋(16:00着)
 - (21日) 仙水小屋4:45発～仙水峠(5:30着)5:35発～駒津峰(7:30着)7:50発～六方石(8:20着)8:30発～甲斐駒ヶ岳(10:00着)10:15発～摩利支天分岐(10:30着)～六方石(11:15着)11:30発～駒津峰(12:00着)12:40発～双児山(13:30着)13:40発～北沢峠(15:20着)15:30発～仙流荘(16:15着)

◆◆初めての南アルプス

中村

帰省の時に通る中央自動車道の山梨県付近から見える甲斐駒ヶ岳は、堂々として脳裏に焼きついていたし、今回、南アルプスは初めて踏み入るとあって、ワクワク感いっぱい参加した。

前夜泊した仙水小屋では、ご主人の自然へのこだわりが感じられた。エネルギーは、自作の水力発電。庭には、アルミ箔で覆ったバラボラアンテナ？から太陽光を集め、湯を沸かすコンロ。塩素を含む水が流れるトイレも全く臭いがなく、目を見張ることばかり。加えて、3名のスタッフは、お膳やお茶を運んでくれたり、布団をセットしてくれたり、身のこなしや振る舞いのたおやかさに、もうウツリさせられてしまった。ひいてもらった布団にもぐりこんだら、7時30分の消灯に気づくことなく、そのままぐっすり。突然電気がついたのは3時。満月に近い月が煌々と光っていた。というわけで、山時間にどっぷりと浸ってしまった。

いよいよ出発。まず、日の出に間に合うよう、仙水峠を目指す。峠につくと太陽は既に昇っていて、陽光がまぶしく雲海に広がっていた。行く手を見あげると鉄兜に似た摩利支那が突如として現れ、その迫力に心がちょっとひるんでしまった。

急峻な樹林帯を抜け、駒津峰に着くと、正面に甲斐駒ヶ岳の全容が見渡せた。ここからは、予想を超えた高さがあり且つ、急な傾斜の岩壁の連続だった。ザイテングラードにあるようなはしごや補助具は一切なかった。私は、脚力・腕力がないせいか、荷物を先に挙げてもらったり、岩に抱き着いているところを、手を借りて引き上げてもらったりして、やっと乗り越えていくことができた。駒津峰から先はピストンの為、不要な荷を降ろして行ったのは、正解だったけれど、日頃のトレーニング不足を痛感せざるを得なかった。

甲斐駒ヶ岳山頂は、上昇気流がながれ、見晴らしはイマイチでも、雲は真っ白。空の色は、まさに素晴らしく「限りなく透明に近いブルー」そのものだった。

今回ともに歩いてくださったメンバーの方々に、感謝します。ありがとうございました。



3

■南アルプスの2名峰に登る 甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳

- 山行日：8月19日(金)～22日(月)
- 参加者：L上田 SL待場 香川 木村 佐々木 瀧原

● 行動記録

(19日) 北沢峠 13:25 発～北沢長衛小屋テント場(13:45 着)

(20日) テント場 4:10 発～仙水小屋(4:48 着)4:55 発～仙水峠(5:30 着)5:40 発～駒津峰(7:15 着)7:25 発～六方石(8:02 着)8:05 発～甲斐駒ヶ岳(9:35 着)9:55 発～六方石10:55～駒津峰(11:40 着)11:52 発～仙水峠(13:00 着)13:10 発～テント場(14:20 着)

(21日) テント場 4:30 発～北沢峠 4:50～大滝ノ頭(6:25 着)6:35 発～小仙丈ヶ岳(7:40 着)7:50 発～仙丈小屋分岐(8:30 着)8:40 発～仙丈ヶ岳(9:05 着)9:20 発～仙丈小屋(9:35 着)10:00 発～馬ノ背ヒュッテ(10:45 着)10:55 発～北沢峠 13:00～テント場(13:15 着)14:25 発～北沢峠 14:40 発～仙流荘 15:30 着

◆◆南アルプス北方の雄、甲斐駒ヶ岳に登る

瀧原

【1日目】南アルプスに入り、テント泊

名鉄バスが遅れたため、仙流荘からの南アルプス林道バス12時10分発に間に合いそうになかったが、タクシー会社の配慮で待ってもらって乗ることができた。感謝。

北沢峠から長衛小屋前のテント場に着くと、もうそこには色とりどりのテントがたくさん張られている。水場やトイレに近い適当な場所を探してテント設営した。広いテント場で冷たい水もたっぷりあり上等のテント場だ。初日は野菜たっぷりの豚鍋を囲み、明日に備えて早目にテントに入った。夜空を見ると、星が大きくて目の前にあるように思われる。明日の良いお天気を願いながらシュラフにもぐり込んだ。

【2日目】甲斐駒ヶ岳はなかなか手強い！

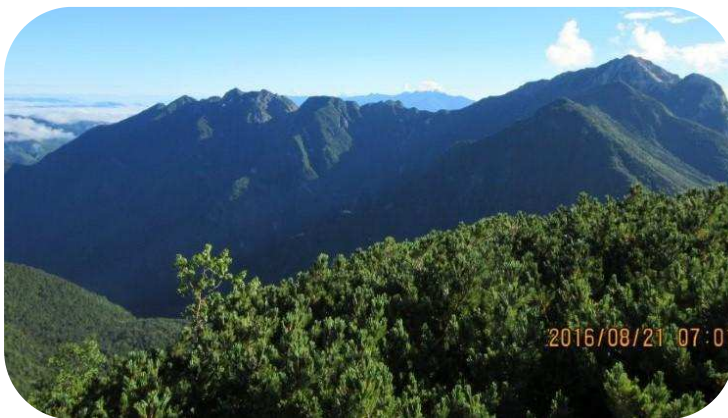
3時起床、朝食を済ませ4時過ぎに出発。仙水小屋の辺りで明けてきて、その先のガレ場を横切っていくときには良いお天気だった。仙水峠に着くと前方に摩利支天(まりしてん・陽光)、振り返れば小仙丈が見え、大きなケルンがいくつかあった。ここから尾根道の急登を1時間半、きつかった。森林限界を過ぎた辺りで展望が開け、右手に白いピラミダルの甲斐駒ヶ岳の雄姿と摩利支天が目の前に現れ、左手には大きな仙丈ヶ岳が見えて、思わず歓声を上げた。しばし、この展望に疲れも癒された。登山道のわきには小さな白い花をつけた高山植物が、登山者を励ますように咲いていた。徐々に山梨側から霧が上がってきて、駒津峰に着くころには曇って風も出てきた。

ここからは岩尾根だ。鎖など一切なくて、それこそ全身の力を振り絞ってよじ登った。

途中、六方石と名付けられた大きな立方体のような岩が角を下にして立っている。自然の造形物は見事である。直登コースとの分岐でまき道の方へ行った。花崗岩の砂礫の道で滑りやすいため慎重に歩を進めた。花崗岩が作り出したいくつものオブジェが美しい。六コースの人たちと出会ったところで本格的に雨が降り出した。雨具を着用して、さらに砂礫の急登を上り、やっと着いた頂上は全く展望がないが、残念な思いよりも、ただただみんなで頂上に立てたことが嬉しかった。苦労した分、達成感は大きかった。

ピストンで下山。激しい雨ではないが、一瞬たりとも気が抜けない。下山口近くの沢まで来ると、若者たちが「クマ目撃情報」を知らせてくれた。さらに気が引き締まり、最後まで安全な下山へとつながったことで喜ぶべきか？山深い原生林の中では何が起こっても不思議ではないと思った。

10時間ほどかかった甲斐駒ヶ岳登頂はガレ場、岩場、砂礫、と難所続きのルートだが、いい経験だった。甲斐駒ヶ岳はワイルドな山だ。もう2度と登ることはないと思うが、私の記憶にいつまでも残る山だろう。



◆◆南アルプスの女王、仙丈ヶ岳に登る

香川

テントの外から「時間ですよ」の声で女性メンバー4人が目を覚ます。時計を見ると3時20分。4時には出発の予定なのに・・・雨は降っていない。

小屋の前のテーブルで昨夜作っておいた白飯、味噌汁で朝食、予定より30分遅れで出発。

昨日の雨で、びしょびしょの手袋をして、ぬれたリュックを背負いヘッドライトをつけて坂道を歩くが、どうにもテンションが上がらない。月はまだ高いところに見える。

原生林を登って行くうち次第に明るくなってきた。高く伸びた針葉樹林の間から日が差し込み、昨日登った甲斐駒ヶ岳が右手にみえてきた。予想外のお天気に嬉しくなる。稜線に近くなると左手に富士山、北岳、間ノ岳が迫っている　すご～い！！

森林限界のあたりからは、山々を囲んだ中に雲海が見えた。下は甲府市らしい。出発から約3時間小仙丈ヶ岳に着いた。ここからが楽しみにしていた稜線歩きだ。ハイマツに陽が注ぎ輝いている。左下は小千丈カール、足元には小さいウラシマツツジの葉が紅葉しかけている。

順調な歩きで朝の出発の遅れを取り戻した。山頂までの道も所々に木の段があり登り易い。9時過ぎ山頂に到着。360°のパノラマ、雲が浮かんでいて分りにくい、北アルプス、中央アルプス、富士山、北岳、間ノ岳・・・二等三角点にタッチ。1人ずつの写真も写す、今度は、仙丈小屋に下りて行く。仙丈小屋のベンチで、佐々木さんご持参のドライフルーツ・ナッツ入りの酵母パンをコーヒーと一緒にいただいた。満ち足りた気分で、リュックを背負いかけたところに、砂川会長を先頭に1コースのメンバーが下から登って来られました。逢えてよかった！ 下山は、ナナカマドの赤い実に癒され、ハイマツの中からホシガラスが飛び立つのも見え、滝にパワーをもらいながら、水もペットボトルに満たして、出発から9時間テント場までたどり着いた。



経験豊富なリーダーや先輩メンバーのおかげで、3度目の夏山も楽しく過ごす事ができました。仙丈ヶ岳は、やさしく変化に富んでいてもう一度登りたい山になりました。雨の中のテント泊も想い出深いものになるでしょう。来年の夏山に向けてまた1年頑張ります。

夏山に関わっていただいた皆様に感謝です。

4

■鳳凰三山に挑戦 薬師岳、観音岳、地蔵岳

- 山行日：8月19日(金)～22日(月)
- 参加者：L野村 SL垣内 清水 田羅間(勤)

● 行動記録

(19日) 甲府駅(13:11着)13:25発―夜叉神峠登山口(14:10着)14:27発～夜叉神峠小屋(16:00着)

(20日) 夜叉神峠小屋6:00発～杖立峠(7:45着)7:50発～苺平(9:45着)9:52発～南御室小屋(10:25着)11:00発～薬師岳小屋(12:45着)

(21日) 薬師岳小屋 6:08 発～薬師岳(6:15 着)6:20 発～観音岳(6:50 着)7:00 発～アカヌケ
沢ノ頭(8:20 着)8:30 発～高嶺(9:26 着)9:36 発～白鳳峠(10:40 着)10:50 発～白鳳峠
入口(14:10)14:12 発～広河原(14:30 着)

◆◆夜叉神峠より鳳凰三山を縦走

清水

膨大な資料からピンポイントで計画書を作成した野村さん、会計で紅一点の垣内さん、
数字にめっぽう強い田羅間さん、強力メンバーで縦走しました。

交通機関はすべてJRで、これは体力温存が目的です。【素晴らしい！】

座席指定席が、すべてドアの入り口です。会の皆さん何故かわかりますか。？

塩尻の駅でお昼だったので、私だけ駅弁で甲府牛が入っていました。これがまたおいし
いかった。こんな食べられたのは、野村さんのおかげです。【ありがとう！】

甲府駅に近くなってきました。車内で「バスにするか、タクシーにするか。？」あなた
なら、どちらにしますか。？

最初の宿泊地、夜叉神峠小屋に着きました。ここの管理人さん軽い脳梗塞と思われ、
いきなり、「カウンター迄運びますから、その先はセルフで願います。」とさ！



こんな澄んだ空気の下で、何故病気になるの？(そう言えば、一寸太っていました。)

2日目は、薬師岳小屋で、着くまではず
っと雨・雨でした。服もザックもずぶ濡れ、
雨男はだれだ！！【それは、他の人です。
決してこのメンバーではない。】

野村さんは、天気予報をラジオ聞いてい
たので「明日は、晴れる。」と確固たる信
念でした。次の朝、晴れましたよ。(さすが、
野村さんです。)

垣内さんのいつもの行動力で、3人でご

来光を拝みに行きました。

鳳凰三山も終わり、下山です。広河原のガレ場長い事、白鳳峠から広河原までの急な坂、
これが本当の縦走の辛さ。(歩荷不足でした。)雨の中、行動記録時間を記入していただい
た、田羅間さんに頭が下がる思いでした。(私なら、おそらく書かなかっただしょう。)

明朗会計及び何事にも気配りをされていた垣内さん。我が大将の野村さん、本当にご苦
労さまでした。

5

■日本第二の高峰に挑戦 北岳、間ノ岳

- 山 行日：8月18日(木)～22日(月)
- 参加者：L和田 SL三木(悦) 大谷 河合 田羅間(易) 舛賀 村上

◆◆18日、19日 広河原から北岳山荘

大谷

- 行動記録：

(18日) 新大阪駅 9:40 発—甲府駅(14:08 着)14:15 発—広河原山荘(15:40 着・泊)

(19日) 広河原山荘5:00 発～大樺沢二俣(8:10 着)8:25 発～八本歯のコル(11:40 着)12:00 発
～トラバース道分岐(12:45 着)13:00 発～北岳山荘 14:00 着・泊)

日本第2の高峰、北岳とはどんな山だろうと期待して来たが、お天気が余りよくない！
広河原から大樺沢の清流沿いに樹林帯の道に行く。曇空だが、明日は晴れると信じて。

稜線に出ると、素晴らしい絶景が見えると想像しながら……。今日は標高差1、500mを登らなければならない。

ゆっくりとしたペースで大樺沢二俣に、3時間かけて着くと、バイオトイレが設置されていた。一息入れて、二俣を左へ雪渓沿いに行くと右上部にバットレス(北岳の東面にある大岩壁)が見えてきた。落石があるかもしれないので、ヘルメットをつけて歩いた。

八本歯のコルに着いた前後から、木のハシゴが次々に、これでもかという位、何回も出てきて、どのハシゴも丸太なので、うまくバランスを取らないと滑りそうになるので、ちょっと大変だった。

池山吊尾根を経て、トラバース道を通って北岳山荘に着いたが、ガスっていて景色は何も見えない！夕方、山荘の窓から、富士山だけが見えました。

ちなみに、山小屋は、一枚の布団で二人寝るほど、混んでいた。

◆◆20日 北岳山荘～間ノ岳～北岳～肩の小屋

田羅間(易)

- 行動記録:北岳山荘5:10 発～中白根山(6:10 着)～間ノ岳(7:30 着)7:35 発～中白根山(8:55 着)～北岳山荘(9:30 着)10:45 発～北岳(12:45 着)12:50 発～北岳肩の小屋(13:30 着・泊)

間ノ岳へは膝を痛めた和田さんを除いた6人で出発。天気は悪く、強風と今にも降りそうななかを歩く。尾根へ出ると風に飛ばされないように踏ん張って歩く。

ピークを幾つか越え、それでも間ノ岳は遠く、歩き歩きやっとのことで到着。強風と雨のため写真を撮り、すぐに引き返す。

帰りは意外と早く着く。食事をしてコーヒータイムをとり、北岳に向け雨の中を出発。ゴツゴツ岩、ゴロゴロの道を歩き、しかも途中道標がなく、横道に入ったらしつつ登る。なかなか着かず、まだかまだかと歩く。やっとのことで頂上へ。そこからは少し歩くと肩の小屋。その小屋最悪。

水はなく、トイレは外。雨の中傘をさして行く。カップも乾かせず寝袋スペースでギュウギュウ詰め。にぎやかすぎる人の声。人気の山なので仕方ないか……



◆◆21日 肩の小屋～広河原

村上

- 行動記録:北岳肩の小屋6:00 発～小太郎尾根分岐(6:30 着)6:40 発～白根御池小屋(8:45 着)9:10 発～広河原(11:50 着)11:55 発～バス停(12:00 着)12:30 発～仙流荘(13:30 着・泊)

肩の小屋(3、015m)の朝は晴れわたりました。朝焼けに富士山が裾野まで美しく見えます。鳳凰三山も甲斐駒ヶ岳も仙丈ヶ岳も青空の中に綺麗に見渡せます。

小太郎尾根分岐までは気持ちの良い稜線歩きです。分岐からは急な下り、草すべりのあたりまで下るとトリカブトなど高山の花々も見られます。今日は、ただただ下りばかりで足のつま先も悲鳴を上げ始めたころ、南アルプス市営白根御池小屋に着きました。白根御池小屋は、綺麗で水も呑み放題でした。いつか宿泊してみたいなとソフトクリームを食べながら覗いて来ました。小屋から歩き出すと、今まで下って来た方角はガスに覆われていました。小屋から広河原まで最後の下り2時間40分、小休止2回も10分、15分とゆったりです。肩の小屋から広河原(1、529m)まで1、486mの下りで、着いた時はただホッとしました。

仙流荘までのバスでは、北岳・間ノ岳の厳しい山行を思い出し、とりあえず全員が無事に下山できた安堵でいっぱいでした。



■黒戸尾根から甲斐駒ヶ岳へ 甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳

- 山 行 日：8月18日(木)～22日(月)
- 参 加 者：L尾越 SL藤本 赤木

◆◆汗とテントと友情と(2016夏山6コース)

赤木

【8月19日黒戸尾根】

- 行 動 記 録：竹字駒ヶ岳神社6:50発～笹の平(横手分岐)(9:15着)9:20発～刃渡り(ナイフリッジ)(11:40着)12:10発～刀利天狗(12:30着)12:35発～五合目小屋跡(13:35着)13:45発～七丈小屋(15:00着)～七丈小屋テント場(15:10着)

黒戸尾根はきつかった。6時50分吊橋を渡ると樹林の斜面をジグザグに登っていく。急で長い、明るい平らな尾根に出る。笹のひろびろとしたなだらかな道だ。しばらく行くと「笹の平」、少し気が楽になる。道が急になり「八丁坂」「前屏風ノ頭」と、ツガの原生林を進むと大きな岩の三角形に尖った稜線「刃渡り」の峻だ。見た目よりクサリがあり難なく行ける。痩せ尾根を進むと連続したハシゴとクサリ場が続き上へあがると石碑や石造物の林立する「刀利天狗」に出る。ここで半分の行程だ、黒戸山を巻くとぐんぐん下り五合目小屋跡に着く。平らなコルで前方には薄暗い樹林の中に屏風岩が見える。ガスもだんだん濃くなる。

ほぼ垂直に近いハシゴが連続してつづく両手両足で登っていく。冷たい大きな粒が落ちてきた。不安定な場所でカップの上だけ着る。ハシゴからハシゴへと体全体で登っていく、かなりきつい。ピークから不動岩に渡りまた連続ハシゴ、クサリが続くが、やがて草の山腹を少し行くと尾根越しに七丈小屋の屋根が見える。やっと来た、雨もやんだ、小屋の前で水を確保しテント場へ行くがこれがまた本当にテント場があるのかと不安になるくらい登る。無事到着(15時10分)テント設営、全部で5張りのテント村だが、黒戸尾根を登ってきたという親近感から皆とすぐ仲良くなった。特に三浦君という単独行の青年とは親しくなりいろんな話をした。だんだん薄暗くなる。目をあげれば残照に浮かび上がる鳳凰三山、地蔵のオベリスク、薬師、観音、今日の有終の美。

【8月20日甲斐駒ヶ岳】

- 行 動 記 録 : 七丈小屋テント場 5:30 発～八合目 (6:30 着) 6:35 発～八合目御来迎場 (7:15 着)
7:25 発～甲斐駒ヶ岳頂上 (8:00 着) 8:25 発～駒津峰 (10:00 着) 10:15 発～仙
水峠 (11:15 着) 11:20 発～仙水小屋 (12:05 着)～長衛小屋 (12:30 着)

5時30分出発このあたりから森林限界、ダテカンバや這い松になって、だんだん岩場が増えてくる。もはや登攀状態になる。両手両足でホールド、スタンスに力を入れ全身の筋肉で体をあげて行く体が振ると背中がザックに振られる。高度があがるとしんどいが視野がぐんと広がる。北に八ヶ岳の赤岳、阿弥陀岳、すこし左に蓼科山、その奥に浅間の煙、北西には湖面を光らせる諏訪湖、遠く槍、穂高から北に延びる北アルプス、また八ヶ岳山麓の富士見町、北杜市の箱庭のような景観、大地をえぐる釜無川の川筋、登攀に疲れると目を癒す、ぼろぼろの花崗岩の岩場をグルグル回りながら登って八合目に着く頃からもうガスが出だした。上を見るとうんざりするくらい高い、方形の大きな岩の上に鉄剣が二本突き刺してある、頂上かと思えばまだ八合目上部、際限なく登攀をくり返しやっと稜線に出る。幾つかのピークを越えやっと頂上に辿り着いた(8時)。

祠の横にザックを放り出し座りこみ大きく息をし、水を思い切り飲んだ。あの三浦君が待っていてくれた。甲斐駒ヶ岳の頂上は濃いガス。

雨の中12時30分長衛小屋到着、雨の中テントを設営、三浦君がテントまで挨拶に来てくれた。

【8月21日仙丈ヶ岳】

- 行 動 記 録 : 長衛小屋テント場 4:00 発～仙丈ヶ岳五合目 (5:50 着) 5:55 発～小仙丈ヶ岳 (6:55 着) 7:05 発～仙丈ヶ岳 (8:15 着) 8:40 発～仙丈小屋 (9:00 着) 9:10 発～馬の背ヒュッテ (9:55 着)～大滝の頭(五合目) (10:35 着) 10:45 発～長衛小屋 (12:00 着)

早朝4時ヘッドランプを着け軽装備で出発、北沢峠への道から二合目を目指す。三浦君も一緒だ。

このコースは合目が明示されている。

三合目、四合目と登るうちにだんだん明るくなってくる。南東に北岳が迫りその左に黒々と富士山が見える。うしろを振り向くと甲斐駒ヶ岳が白く聳え右横は雲海に埋まる。どんどん高度あげれば富士山、北岳が大きくなる。

下に馬の背ヒュッテの屋根が見え、小仙丈からは小仙丈カール、藪沢カールと仙丈小屋が、仙丈ヶ岳からは中央アルプスの木曾駒、宝剣、空木の連峰が間近に迫る。

南には南アルプスの名峰、塩見、荒川三山、赤石、聖が遥かにかすむ、この仙丈ヶ岳の頂上で三浦君と別れる。記念写真、固い握手、笑顔、「それでは行きます」「気を付けて」「頑張れよ」若者は重いザックを背負い南に長く延びる仙塩尾根をたどる。3人でいつまでも見送っていた。



テントを担ぎ、黒戸尾根を登り甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳。しんどかった、汗をいっぱいかいた、休んだ、食べた、白州の銘水も飲んだ、笑った、工夫した、いつも3人で、今回の山行はこの3人だからこそ出来た。またどんどん山に行こう、厳しい山にテントを担いで、そしたらまたあの七丈小屋のテント場で逢った人たちに再会できるかもしれない、そんな気がする。

【参加者の一言】

(藤本) 一週間ほど頭の中は山のことを考えたくなくなるくらい山を堪能した。

(尾越) 冷静なコースリーダー兼気象担当と苦しい時も全体をフォローし気分を盛り上げてくれたメンバーのお陰でテント泊装備の重量も気にせず楽しく歩けた。

【三浦君のトレース】

(日本海) 親不知～白馬～後立山連峰～針ノ木～不動岳～裏銀座～三俣蓮華岳～槍ヶ岳～大天井～蝶ヶ岳～松本～美ヶ原～霧ヶ峰～蓼科山～八ヶ岳～小淵沢～黒戸尾根～甲斐駒ヶ岳～仙丈ヶ岳～塩見岳～荒川三山～赤岳～聖岳～光岳～



■蓬萊山(1174m)

(琵琶湖を眼下に比良山地 第2の高峰を歩く)

- 山行日：8月25日(木)
- 参加者：L尾内 SL西口 狩集 田中(美) 田中(由) 苦瓜 開
- 行動記録：平バス停(9:25着)9:30発～ドン登山口(9:48着)～アラキ峠(10:25着)10:30発～権現山(11:03着)11:12発～ホッケ山(11:40着)12:05発～小女郎ヶ池(12:30着)12:35発～蓬萊山(13:05着)13:12発～打見山(山頂駅・13:55着)14:00発～山麓駅(14:05着)～JR志賀駅(14:30着)

◆◆蓬萊山に登って

狩集

蓬萊山は名前をどこかで聞いたような、そうそう豚饅、餃子の551蓬萊だ。すっかり刷り込まれている。辞書で調べると中国の伝説では「東の海にあって、仙人の住む山」また、「桃源郷」らしい。どんな山かしらワクワクします。



姫路駅乗車組と宝殿駅乗車組の7名で、青春18切符を利用して、湖西線の堅田駅で下車、駅前からバスに乗車。

バスの窓に水滴がついている。空をみると曇り、やや灰色の雲もあり、青空は見えない。「降りませんように」と願いつつ、平バス停で降りる。じぐざぐ

ストレッチをして出発。今来たバス道を少し歩き、脇道に入る。登山口の標識

があった。木立の間をジグザグと歩きやすい道でしたが、登りが続くので、おしゃべりしていた声も静かになっていました。アラキ峠で小休憩、まだ権現山までは登りが続く。

権現山付近ではひざ丈くらいの笹がしげり、目の前は明るくなってきました。雲の中にいる感じで下界は見えません。権現山からホッケ山までは高低もなく、周りを見渡す余裕もでてきたか、ミストかガスの中にいる感じです。ホッケ山の頂上は平らなところで広々としている。ここで昼食タイム。曇っているので陽ざし浴びることなく休めた。連日の猛暑に閉口していたので、嬉しいな。

食事も終えて出発と立ち上がったら、雲の切れ間から琵琶湖が見えました。皆、歓声を上げました。ホッケ山から小女郎峠までも快適な道です。登山道から外れた小女郎ヶ池は、霧の中、芦の葉の薄緑色が水面に写り、幻想的な景色でした。小女郎峠に戻って、蓬莱山まで少し登りです。蓬莱山の頂上も広く開けている。スキー場なので丈の短い草が茂っている。鹿のころころフンが大量に落ちていて、踏まずに歩けたつもりだが分からない。どれだけ多くの鹿がいるのだろうと思った。動いているリフトもあり、いろいろな遊具が設置されていた。金鎚でたたくとテコの原理で輪が跳ね上がり、鐘をならすことができる遊具を皆でやってみました。鐘の音を聞きたくて、思い切りの力で叩いてみました。ストレス解消になったかな。子供達は水が流れている長いゴム製の滑り台で、嬉々として滑っていた。高さはないが、横長のクライミングもあり、安全装置を身につけた「天空ウォーク」もありました。

下りはゴンドラに乗り、沖島や琵琶湖大橋も見えて、景色を楽しみながら、降りました。

121人乗りの大きなゴンドラなので、余り揺れなかった。

JR志賀駅前に薪釜焼きのパンと書かれたおしゃれなパン屋があった。人気のお店なのか全てのパンが売り切れて、ぶどうパン2ケのみが残っているという。そのぶどうパンとコーヒーを頂きました。私達で貸し切り状態です。パンもおいしくて気持ちの良いお店だったので、満足でした。

ゴンドラも、便数の少ない行き帰りのバスも待ち時間がなく、スムーズに運んだので、ゆっくりお茶の時間もとれて、良かったです。心配していた雨には降られず、曇っていたから、楽しく歩くことができました。つかの間の桃源郷を味わいました。計画して下さったり、参加された皆さん、ほんとに有難うございました。



■苗場山(上信越) 雄大湿原広がる山を歩く

- 山 行 日：8月27日(土)～29日(月)
- 参 加 者：L 砂川(延) SL 尾越 大谷 谷口 田羅間(易) 田羅間(勤) 待場 村上

● 行 動 記 録：

(28日) 糸魚川駅(8:30 着)－3合目登山口(9:05 着)9:25 発～4合目(10:05 着)10:10 発～湿原休憩スペース(湿原入口・12:45 着)13:00 発～9合目(13:10 着)14:00 発～赤倉山分岐(13:45 着)14:50 発～苗場山頂上(14:00 着)14:25 発～のよさの里(14:30 着)

(29日) 苗場山自然体験交流センター06:00 発～9合目(7:10 着)～湿原休憩スペース(湿原入口・07:25 着)～4合目(10:15 着)～3合目登山口(10:55 着)11:00 発～のよさの里(11:30 着)

◆◆晴れのち嵐の苗場山

谷口

ブーメラン台風10号の動きを気にしながらの出発になりましたが、何とかザアザア雨になる前に栄村「のよさの里」に到着。家を出てから約10時間の移動は遠かったです。

18:00からは栄村ファンクラブの方々と楽しい交流会。東京に住んでいながら、日本の秘境100選である秋山郷栄村の運営方針や活動にエールを送られている話を聞き感動しました。しかし、時間が経つにつれ雨風が強くなり栄村ファンクラブのメンバーは苗場山登山には思案顔。そんな中、砂川会長は「天気図（を提示しながら）から見ると明日の午前中は晴れるから皆さん苗場山に登りましょう。」とにこやかに誘われました。

翌日、会長の言葉通り青空が広がりました。迷っていた栄村ファンクラブのメンバーは全員参加となりました。高御位山遊会の女性陣は5時ごろから雄大な鳥甲山を眼前に見上げながら露天風呂に入り準備万端！！



9:30頃三合目登山口に到着。昼頃には登頂の予定が、何と倍近い時間がかかりました。登山・トレッキング・ハイキングとの認識の違い、体力の違いなど、さまざまな要因が重なったためと思いました。登山を始めて間がない私には、その1つ1つがよい勉強になりました。

無事苗場山ヒュッテに着きましたが、夕方から台風の影響で横殴りの風に雨。一晩中続き、この天候の中、朝6:00に出発しました。

ヒュッテを出てすぐ写真でよく見る湿原の中の木道を歩きます。あまりの風の強さに私も含め何人かが湿原の中に吹き飛ばされてしまいました。樹林帯に入るとジュルジュルの湿地帯は水かさが増え、岩場は水がたまり、またクサリ場が7ヶ所ある登山道は本当に気が抜けませんでした。栄村ファンクラブのメンバーは不安そうな面持ちで言葉も少なめでしたが、尾越サブリーダーや田羅間易子さんが的確な指示を出され、11時には無事全員下山することが出来ました。

また、私自身初めてのドライバーという任務で緊張しましたが、砂川会長のA級ライセンスのリードでとても走りやすかったです。

最後に私自身の反省を1つ。帰宅後登山靴を間違えたのに気づきました。(同じメーカー色で0.5のサイズ違い)基本的なミスで減点20点です。(笑)

たくさんのお話を学ぶ山行になりました。砂川会長をはじめ、皆様大変お世話になりました。これからも宜しくお願い致します。



■「来日岳」(女性委員会) 但馬の山を歩く

- 山 行 日：9月3日(土)
- 参 加 者：L 尾内 SL 西口 狩集 島谷 田中(美) 田中(由) 苦瓜
橋本(万) 村上 矢根

- 行 動 記 録：来日バス停(9:20 着)～西登山口(9:30 着)9:35 発～中間点(10:45 着)～来日岳
(11:40 着)12:15 発～紅葉平(12:40 着)～城崎温泉駅(14:26 着)

◆◆初めて歩く但馬の山、来日岳(567m)

矢根

こんなに集合時間の早い山行は、初めてで、前の日の晩から起きられるかと緊張していました。そして当日は、台風が近づいていて雨を心配していましたが、天気は晴れてひと

安心です。

J R 姫路駅から播但線で、寺前駅、和田山駅、豊岡駅で乗り換え城崎温泉駅に到着。

電車の中では、皆さんの話はずんで、3時間の乗車時間はあっというまに過ぎました。

さて、駅からバスで登山口まで行き、少し迷いましたが、来日岳西登山口頂上567メートルまでと書かれた、健脚で1時間40分の看板を見ながら、来日岳への始まりです。

信仰の山らしく、左右にある石仏を見ながら進みます。304メートルまでの、長い長い急登は、すごくしんどかったです。前に見える来日岳を目指し、広い登山道で風を受けながら山頂に到着、途中におられたお地藏さまに見守られ進みました。山頂で、お昼ごはんをいただきました。

来日岳下山後、城崎温泉へのルートからアクシデントではずれ、お堂の前を通過して、来日の集落からバス停に到着。幸いバスもすぐ到着して、城崎温泉まで行きました。

駅前の喫茶店で冷たい飲み物をいただき生き返りました。

温泉には入れなく残念でしたが、無事に楽しく山行を終えることが出来、参加のみなさまに感謝いたします。ありがとうございました。



■菊水ルンゼ(アルプ山行)

- 山 行 日：9月3日(土)
- 参 加 者：L 竹内 SL 和田 尾越 砂川(延) 須増 三木(悦)
- 行 動 記 録：鶴越公園 9:15 発～石井ダム(9:50 着)10:00 発～登り口(10:10 着)～菊水山(11:30 着)12:10 発～鍋蓋山(13:30 着)13:45 発～大龍寺(14:20 着)14:30 発～市ヶ原(14:40 着)

◆◆登って見たかった「菊水ルンゼ」

竹内

久しぶりの山行、天気予報では台風の影響で微妙な天気で危ぶまれましたが、当日は晴れて暑い天気でした。今回の菊水ルンゼは他所の会などでトレーニングに使われていると聞き一度行ってみたいところでした。(ルンゼとは水のながれで浸食された岩溝)

鴨越駅に9時に集まり六甲全山縦走でおなじみの菊水山に向かう途中から石井ダムに向かい、要塞の様なコンクリートの提体、それに続く階段が暑さとともに汗が止まらずルンゼの取り付に着き、ここからは藪こぎ気味のトラ



バースで始まり、登りはじめは比較的登りやすく途中からは水の流れもあり、濡れた岩場など滑りやすく、慎重に手がかり足がかりを見つけ登り、約一時間位で尾根に出て少し歩くとお馴染みの菊水山頂上に着き昼食を取り、後は鍋蓋山、それと大龍寺そして市ヶ原と通り新神戸駅に着きました。暑かったですが楽しい山行に成りました。